

第6学年 総合的な学習の時間 学習指導案

令和6年7月17日（水）第5校時
荒川区立第四峡田小学校 6年2組25名
授業者 第6学年担任

校内研究のテーマ

自ら課題を見付け、見通しをもって活動する児童の育成

1 単元名

「心のふるさと荒川区を伝え隊！！」（6月～10月）

2 単元の目標

探究的な見方・考え方を働かせ自分たちが住む地域の特色や魅力に目を向け、そのよさを発信していく活動を通して、自分たちの住む町への思いをまとめ、表現することのよさを大切にしながら、自己の生き方を考えることができるようにするために、以下の資質・能力を育成する。

- (1) 探究的な学習の過程において、荒川区のよさや地域に貢献している人の思いに気付くとともにそれらが人々の努力や工夫によって支えられていることに気付く。
- (2) 地域や社会の中から問いを見出し、その解決に向けて見通しをもって調べ集めた情報を整理・分類して、根拠を明らかにしながらまとめ・表現する力を身に付ける。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、自分、地域の人の思いや願いを尊重しながら関わろうとする態度を育てる。

3 単元の評価規準

探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力		
①知識及び技能	②思考力・判断力・表現力等	③主体的に学習に取り組む態度
ア その町の特色や魅力を理解している。	ア これまでの学習から、自分たちの興味関心に基づいて、活動の方向性を決めている。	ア 自分なりの方法を工夫しながら、友達と協働して探究活動に取り組もうとする。
イ 各自で調べた地域に関する情報を共有し、知識を得ている。	イ 課題の解決に必要な情報を手段を選択して多様に収集し、種類に合わせて蓄積している。	イ 自分のよさを理解するとともに、自分と異なる意見や考えを理解し、尊重しようとする。
ウ 自分たちの考えを整理し、目的や相手を意識しながら話し合いを進める技能を身に付けている。	ウ 一人一人の思いや願いをもとに観点を決めて話し合い、情報や考えを順序付けている。	ウ 自分たちで考えた活動を学校や地域に広めていく活動を通して、社会と関わりながら生活していこうとしている。
エ 学習対象に関する理解は、荒川区の魅力を発信するために探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。	エ 自分たちで考えた情報発信の方法を実行している。	

4 単元について

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編（平成29年7月）第5章第3節に示された「②地域や学校の特色に応じた課題」を踏まえ、構想したものである。

自分たちが住む荒川区を調べることで、普段意識されない身近な地域の魅力も学び取れると考えた。（具体的な体験・活動内容）を通して、解決方法を考えるだけでなく、自分たちの生活にも目を向けることができるような態度を育てていきたい。また、調べた情報をどのように発信するかを考え、地域のもつ役割や地域活性化に向けた努力についても考えられる学習にしたい。

(2) 児童観

本学級の児童は、自分の課題解決に向けて積極的に調べ学習を行ったり、調べたことを発信したりすることに意欲的である。国語「聞いて、考えを深めよう」では、四峡小のよさについて考え、そのことについて詳しく知っている人にインタビューする活動を行った。質問を考えたり、聞いたことをまとめたりする際は、多くの友達と関わり合いながら学習する場面が多く見られた。与えられた課題に対しては意欲的に取り組めるが、自分から課題を見付け、活動に取り組むことが苦手な児童もいる。「下田移動教室をもっと楽しむために」という児童が自分事として捉えやすいきっかけから課題を見付けさせ、探究学習に取り組むことができるようにしたい。

(3) 教材観

本単元は、下田移動教室で訪れる下田市について調べたり、まとめたりする活動を通して、その町の町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織について学び、最終的には自分の住む町である荒川区について紹介するという内容である。自分の住む町だが、その町のよさや魅力、区役所や町内会の人々の取組や努力など詳しくは知らない児童が多いと思われる。これらの地域の特色に応じた課題は、よりよい郷土の創造に関わって生じる地域ならではの課題であり、児童が地域における自己の生き方との関わりで考えることができる。そして、よりよい解決に向けて地域社会で行動していくことについて、自ら課題を見付けて考えることができる教材だと考えられる。

5 研究主題に迫るための手だて

視点① 児童が自ら課題を見付けることができる単元計画

- ・下田移動教室をもっと楽しむために自分たちにできることについて考えさせ、児童が自分事として捉えやすいきっかけから課題を見付けることができるようにした。
- ・単元のゴールや毎時間のめあてを児童と一緒に考えることで、与えられた課題ではなく、児童が自ら課題を見付ける事ができるようにした。
- ・振り返りを行う前に本時の活動をまとめることで、児童が次時の活動内容を明確にした上で課題設定を行える指導計画とした。

視点② 児童が見通しをもって学習に取り組むための手立て

- ・発表の対象や方法を児童と一緒に考えることで、目的に合った探究学習を行えるようにした。
- ・荒川区のことについて専門的なアドバイスを得るために、区役所の方などとの出会いを意図的に設定する。専門的な内容を教えていただき、関わりを深めながら課題解決に向けた学習を進められるように環境を整える。
- ・互いの考えを比較したり、情報を整理したりするためにグループでの話合いの仕方や思考ツールの使い方を様々な教科で継続的に指導する。

6 6年2組の単元の活動計画（全50時間）

児童の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習に意欲的に取り組むことができる。 ・他者に伝える活動において自信をもって取り組むことができる。 ・見通しをもって活動に取り組むことが苦手。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しみである下田移動教室の学習から自分たちの住む荒川区に着目させる。 ・荒川区について校内アンケートを実施し、その結果をもとに活動する。 	きっかけの工夫
-------	--	--	---------

<p>単元に向かう思いや願い</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 下田移動教室をもっと楽しみたい。 ● 自分たちが下田で感じた「楽しい」「また来たい」という思いを荒川区に住んでいる人や来たことない人、これから来る人などにも感じてほしい。 ● 自分たちの住む町についてももっと詳しくなりたい。調べたことを発信したい。



小単元名（時数）	○主な学習活動	●予想される思考や気付き ◇次の小単元につながる思考や気付き
めざせ、下田市のガイドさん！ (10)	<p>【情】下田移動教室をもっと楽しむためにどのようなことができるか話し合う。</p> <p>【整】下田市の情報を集め、整理する。</p> <p>【ま】整理したことを学級内で発表し、共有する。</p> <p>【課】振り返りの内容から次の課題を決めるという課題を設定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・下田移動教室楽しみたい！ ・どうしたら楽しむことができるかな？ ・下田市についてもっと知りたい！ ・事前学習したことを現地で確認し、すごく思い出に残った。 <p>☆次は荒川区についても調べたい。</p> <p>評価規準 ①ア・③ア</p>
荒川区を知ろう！ (10)	<p>【情】荒川区の宣伝についてG Tから話を聞く。</p> <p>【整】分かったことを提案と疑問に分けて情報を整理する。（本時）</p> <p>【ま】荒川区について分かったことをまとめ、次時の課題を見付ける。</p> <p>【課】荒川区について調べ、発信するという課題を設定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・荒川区のよさってなんだろう。 ・下田ほどはなさそう。 ・G Tに話を聞いて、荒川区について初めて知ることがあった。 <p>☆四峡のみんなは知っているのかな。</p> <p>☆調べたり聞いたりしたことを、分かりやすくまとめて発信したいな。</p> <p>評価規準 ①ウ・②ア・②ウ・③イ</p>
荒川区を発信しよう！ (20)	<p>【情】荒川区についてテーマに沿って情報を集めよう。</p> <p>【整】発表内容について方法や対象を意識ながら整理する。</p> <p>【ま】自分たちで決めた発表方法で伝える。発信方法に効果があったか確かめる。</p> <p>【課】荒川区に住む人（町屋）に対して荒川区を知ってもらうために、できることについて考えるという課題を設定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・何について発表しようかな。 ・自分たちの発表がどのくらい効果あったか知りたい。 ・どうしたら発表の効果を知ることができるかな？ ・四峡小のみんなに荒川区を知ってもらえてうれしい。 <p>☆せっかくなら荒川区に住んでいる人にも発信したい。</p> <p>☆どんな発信できるかな？</p> <p>評価規準 ①イ・②イ・②エ</p>
荒川区について、もっと多くの人に知ってもらおう！ (10)	<p>【情】担当に分かれ、実現するための手段について調べる。</p> <p>【整】必要な情報を整理し、まとめる方法や伝える方法を決める。自分たちの活動に効果があったか確かめる方法を考える。</p> <p>【ま】班に分かれて作成する。情報を発信する。単元全体の活動を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リーフレットやポスターをどこかに展示してもらえるかな？ ・自分たちの発表がどのくらい効果あったか知りたい。 ・調べたことが町の人にも伝わって嬉しい。 ・荒川区を自分でも知ることができ、伝えることもできた。 <p>評価規準 ①エ・②エ・③ウ</p>



<p>単元の終わりまでに育ってほしい姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の住む町について他者に語るができる。 ・自分の課題に対して見通しをもって行動することができる。
--

7 本時の活動計画（15／50）

（1）本時の目標

- ・これまでの学習から、自分たちの探究したい内容や興味関心に基づいて、発表内容など活動の方向性を決めることができる。【思考力・判断力・表現力】

（2）本時の展開

<input checked="" type="checkbox"/> 児童の主な学習活動 分 ・予想される児童の思いや考え	<input type="checkbox"/> 教師の支援 ☆評価規準（対象）【観点】
○前時までを振り返り、本時のめあてを確認する。 2 ・荒川区について分かったことが増えた。 ・荒川区役所の人から話を聞けるとは思わなかった。 ・もっと様々な人に荒川区のよさを知ってほしい。 ○学習の流れを確認する。 3	<input type="checkbox"/> 本時の学習の内容を見通して児童の言葉でめあてを決定する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> ゲストティーチャーから聞いたことをもとに今後の活動内容を決めよう。 </div>	
○ゲストティーチャーからの情報について整理する。 10 ・荒川区のことについて知らないことがまだまだたくさんあった。 ・似た考えは近付けたり、グループ分けをしたりしよう。 ・同じ考えの付箋は重ねよう。 ○ゲストティーチャーからの情報について分析する。 20 ・なんで〇〇は〇〇なのだろう。【疑問】 ・もっと〇〇できたらいいのに。【提案】	<input type="checkbox"/> 模造紙に付箋を貼ることで、自分たちの手で情報を動かしながら、整理することができるようにする。 <input type="checkbox"/> 様々な考えが挙がるように、十分に時間を確保する。 <input type="checkbox"/> 多くの考えを聞くことができるよう、全体でも共有する。
○本時のまとめを行い、次時への見通しをたてる。 3 ・ゲストティーチャーから話を聞いて荒川区のために努力している人のことについてもっと知ることができた。 ・知ったことをもっと分かりやすく、伝えるためにまとめていきたい。 ○本時の振り返りを書く。 7 ・荒川区のために努力している人のことについて詳しく知ることができて嬉しかった。 ・四峡小のみんなは知っているのかな。 ・聞いたり調べたりしたことをまとめて、教えてあげたいな。 ・発信するためにまとめる必要がある。 ・ポスターとかを作って町のどこかに貼りたいな。	<input type="checkbox"/> 次時への見通しをもった状態で振り返りを行うことができるように声を掛ける。 <input type="checkbox"/> 書くのが難しい児童には、本時を通して、気付いたことや学んだこと、次時に向けての自分の考えなどを書くよう声を掛ける。 ☆これまでの学習から、自分たちの探究したい内容や興味関心に基づいて、活動の方向性を決めることができる。 （振り返り） 【思考力・判断力・表現力】

8 グループ協議、協議報告

A：①疑問が出てきたところから課題の設定に戻る方法→途中でプレ発表を行う予定。

②掲示物が分かりやすい。疑問と提案が適切だったのか。

子供から出させるためには。疑問と提案が並列だった理由。

B：①教科横断型であった。そもそも分析とは何か。掲示物は子供が作ることもできたのではないか。

C：①ゴールが発信されていた。ゲストと連携することもできればいい。

②思考・研究の過程が分かりやすかった。ほかの班のものも見られるといい。

D：①子供の思考の流れにあった単元計画。自分事として見られる。

②今と次、前回は分かる。良いものと軽いものの精査が難しい。

整理・分析の方法

振り返りから課題にスライドさせていく方法

講師講評（講師：台東区教育委員会 指導課 指導主事 松村 英治 先生）

子供が素直、全員参加型の授業、参加者（ほかの教員）も全員参加の授業、生活総合は子供を見ないとわからない。よく見ることが大事。

①指導案作成にあたって

- 1 具体的に書く イメージ、ストーリーを描くようにする。
- 2 一貫性 目標・ゴールの設定 適切な手だての設定
- 3 提案性

総合の学習の時間の構造のイメージ

上：○目標：総合的な学習の時間の全体計画に書くこと、右側は学校の教育目標

・評価の資料の事例の1番

単元の目標はシンプル、一文でまとめる。

下：○内容：左が探究課題、右が資質能力

左：人・もの・こと

広がるのは単元の学習対象が広すぎる。

「荒川区のよさ」→どこかで街づくりに絞っていく必要がある。

探究課題はこれである。と明確化することが大切

右：概念的な知識の獲得がかかれていないとだめ→本単元における物事の本質

どれでもいいけど、ESDの6つの構成と指導資料の3つの中から主として学ぶものを決める。

中心となる3つ程度のものを定める。

②学習過程

4つのサイクルをまわす

一回、回るごとに課題が生まれる。増えていくイメージ

小単元名と子供から出てくる課題を明記する必要がある。

課題1：解き明かす系の課題（だろうか）→小さなサイクルの中で二つが交互に構成。

2：成し遂げる系に課題（しよう）→1から2へと移っていく。

○中核的な活動

- ・インプットするコンテンツからアウトプットするアクションへ
- ・リーフレットとポスターの機能の違い ベストな方法を選べるように
「調べ学習を発表する総合からの脱却」

本単元だと・・・1、問題状況に出会う。そこからの調査を行う。

- 2、ゴールの設定
- 3、ゴールに合致したツール決め

○1小単元1サイクルでなくてもいい。

- 1つの学期に「1つの小単元」
1つの小単元に3つのサイクル
1つのサイクルに1つの課題

③本時について

目標と子供がもつめあてがずれないように
子供が作るサイクルがいい。ゴールの明確さも必要
最初の話合いは良かった。

何人かの意見を聞いてめあてを聞くと全体で決める

- ・前時までの課題の振り返り
- ・本時のめあての確認
- ・本時の見通しの立案
- ・視覚化より音声言語で理解を深める。
- ・グループでの整理の結果の違いがあっているのか
→なんのための整理なのか（問いに沿って）

○分析・・・整理したものから何が言えるのかを考える。

サイクルで解決した問いを絞る

前時まで収集された情報の量と質→本時の学習活動→次時へ

○振り返りとは・・・1、個人で味わい言語化 2、どこに焦点を当ててもいい

- ・ゴールに関する、めあてに関する

○まとめとは・・・学習した内容を学級全体で確認する。

1、今日の授業の感想やまとめを聞く。表現する。

2、次への見通し

3、課題設定

サイクル（④まとめ）から（①課題）へ戻るためには・・・めあてに行く前にまとめる。

9 成果と課題

〈成果〉

- ・児童にも深く関わりがある宿泊行事がきっかけだったので、意欲をもって取り組むことができた。
- ・自分たちの住む町について考えることは、児童が探究課題を自分事として考えるきっかけになった。
- ・ゲストティーチャーから話を聞くことで、普段は知ることができないような内容も知ることができた。

〈課題〉

- ・探究課題が広くなりすぎてしまい、「街づくり」について考えさせることができなかった。
- ・児童に身に付けさせたい資質・能力を明確にすることができなかった。
- ・整理・分析が児童にとって必要感のない活動になってしまった。